

万が一と言う言い方をされた時、何を思いますでしょうか、事故等の災害を思い浮かべる方もみえるでしょう。一万と、言いますと、一年は三百六十五日ですから、約三十年のことです。三十年で一回起きる事を意味しているかと思えます。東北の大震災から早くも十年です。東南海大地震も噂うわさされています。必ず来ると言われています。何時いつ来るのか心配なことですが、はつきり言える事は未だに予知できないと言う事です。一日一生でと言うものの、つつい明日があると思ってしまうです。**有為転変の世の中であることを忘れ**、滅多に強烈な地震はこない自負も重なり、緊迫感きんぱくかんが欠如けつじょし、時間に追われ、忙しさの中に埋うもれてしまう自分がいるのです。

中日新聞にある作家のコラム「親心」が載っていました。次のような内容です。「厳しすぎるのも親心なら、甘やかしすぎるのも親心。親心なんてものは、とある人間の、とある心のあり方にすぎない、本当に頼りないものなのである。それなのに、なぜか親というものは、自分が子供のためにしていることは、すべて正しいことだと思いたがる。大人として、子供を正しい方向へ導いてやっているのだと、つい思い込んでしまう。自分が信じる正義は、独善にすぎないのかもしれない。自分が語る正論は、ただの持論にすぎないのかもしれない。人というのは、まして大人というのは、そんな迷いの中に、生きるものであるはずなのに」と、教おしえに「諸悪莫作・衆善奉行」とあります。何が良くて、何が悪い事なのか、善きことをしなさいと、訓おしえることが親の勤めことで良いでしょう。修身・道徳我をあたかも大切にしているような錯覚さくかくに囚とらわれる事が沢山あります。善きことをしてきたつもりでも、後々に善行でなかった事に、悔あいる事があります。娑婆あに在あって、これは仕方のないことです。良かれ、悪しかれは共に人間の判断では解決できない事が多いのです。狂気の沙汰という言葉がございます。狂える人は、**狂える心に支配あきつされていて、自分は狂っているとは思っていない**のです。悪を造りながら悪にあらずと思う事です。悪業あくごうのあるところには、必ず悪の報むくいがあります。逃れる事はできません。反省し、狂っていると言うことに気がつけば、既に、狂える状態から、離脱して真人間に成っているのです。**立身出世を望むなど言っている訳ではありません**。自分ありきですと「忘己己を忘れて利他」の心を忘れ、思わぬ落とし穴に、落ちる事に成るから注意を呼びかけているだけです。

四月の油掛地藏尊大祭で、六道を巡って頂きました。腹を立てたまま進んで行く境界（地獄）正常な判断ができません。愚痴の境界（畜生道）。嫉妬健損の境界（修羅道）人を妬ねたむより、自分も精進努力しましょう。そして諍いさかいを回避かいひしましょう。**争いは知識のある無しに関わらず、貴賤貧富も関係なく、老若男女にも関わらず**、相反する思惟から起こりやすいものです。悔い改め懺悔ざんげ（発露懺悔）することによって、佛の慈悲に接することができます。慈悲の解釈には色々ありますが、我々が、どんな行像三昧に身を落としても反省し、懺悔の心、深ければ、**佛様は、我々を見捨てないという御心**が、おありだと言う事です。

令和三年五月一日

善寿界善入院油掛地藏尊